

平成 27 年度第 4 回  
鹿島地区新高校  
設置準備委員会  
(資料)

平成 27 年 12 月 25 日  
佐賀県教育委員会

# 目次

	頁	
資料 1	新たな生徒減少期に対応した佐賀県立高等学校再編整備実施計画 (第1次)第3回新高校設置準備委員会報告まとめ・・・・・・・・・・	1
資料 2	学科の構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
資料 3	校舎制について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	12
資料 4	新高校の教育内容(教育課程、校時等)・・・・・・・・・・・・	20
資料 5	新高校設置準備委員会設置要領・・・・・・・・・・・・・・・・	22
資料 6	鹿島地区新高校設置準備委員会委員構成・・・・・・・・・・	24
資料 7	鹿島地区新高校設置に向けた検討体制・・・・・・・・・・・・	25

資料1 新たな生徒減少期に対応した佐賀県立高等学校再編整備実施計画（第1次）

第3回新高校設置準備委員会報告まとめ

1 開催日時・場所等

地区及び再編対象校	開催日時・場所	委員
杵島地区 ・ 白石高校 ・ 杵島商業高校	平成27年 10月23日（金） 10時～11時30分 白石高校 同窓会館	学校関係委員 4人 地域関係委員 12人 県教育委員会関係委員 8人
伊万里地区 ・ 伊万里農林高校 ・ 伊万里商業高校	平成27年 10月26日（月） 15時～16時30分 伊万里農林高校 視聴覚室	学校関係委員 4人 地域関係委員 7人 県教育委員会関係委員 8人
嬉野地区 ・ 塩田工業高校 ・ 嬉野高校	平成27年 10月27日（火） 10時～11時30分 塩田工業高校 同窓会館	学校関係委員 4人 地域関係委員 9人 県教育委員会関係委員 7人
唐津地区 ・ 巖木高校	平成27年 10月27日（火） 15時～16時 （太良高校視察は、13：45～） 太良高校 同窓会館	学校関係委員 3人 地域関係委員 5人 県教育委員会関係委員 8人
鹿島地区 ・ 鹿島高校 ・ 鹿島実業高校	平成27年 10月29日（木） 15時～16時30分 鹿島高校 同窓会館	学校関係委員 4人 地域関係委員 11人 県教育委員会関係委員 7人

2 主な意見等

地区	主な意見等
杵島地区	<p>「めざす学校像」について 事務局案のとおり承認 学科構成について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新学科を設置する案も資料には示されているが、ニーズがあるだろうか。学科等で特色を出すより、普通科と商業科の組合せが良いと思う。</li> <li>・ 普通科で基礎学力を身に付け、進学して専門性を身に付けるという考えでもいいのではないか。新高校の学科構成は、普通科120人、商業科80人を募集定員とするパターンがいいと考える。</li> <li>・ （新高校の学科等について）「中学生にアンケートをしてはどうか」という意見があったが、中学生にニーズを答えさせるのは難しいと思う。学科に関しては、大人が時代を見ながら決めてやるべきだと思うが、大学入試制度が変わったり、技術革新も進んだりする中、固定化した学科よりも、例えばコースにする等、柔軟性を持たせた方が良いのではないか。</li> <li>・ 医療・看護・介護分野へ進学する生徒が多い現状を踏まえると、そういった分野のコースを作ることも考えられると思う。</li> </ul>

地区	主な意見等
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 普通科と商業科を融合したような学科で、進学にも就職にも対応させるとか、文理学科のような学科で、文系にも理系にも対応させるようなことはできないか。</li> <li>・ 普通科と商業科を一括して募集し、2年次から学科ごとに分ける方が子ども達のニーズに合うのではないか。</li> </ul>
伊万里地区	<p>「めざす学校像」について 事務局案のとおり承認</p> <p>学科構成について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料に学科構成のパターンが複数示しており、農業科だと「生物生産科」、商業科だと「商業科」が必ず入っているが、それらが中心になると理解してよいか。</li> <li>・ 資料の学科パターンに新高校の学科の一つとして農業系とか商業系の融合学科というものが示されているが、具体的な構想を示してほしい。</li> <li>・ 生徒募集は農業科と商業科でくくり募集を行い、2年次からコース選択のような形を取るわけにはいかないのか。</li> <li>・ 新高校の募集定員は200人と決まっているが、これを5学級ではなく、6学級にすることはできないのか。</li> <li>・ 地方創生が議論される中、産業界からの声を聞くために、商工会議所や農協などの方に、この会に参加してもらってはどうか。</li> </ul>
嬉野地区	<p>「めざす学校像」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「地域社会に貢献できる人材を育成する学校」とあるが、「地域」を無くして、「社会貢献」とした方が広がりがある良いのではないか。</li> <li>・ 地域に必要とされる学校でなければならない。やはり「地域」は必要ではないか。</li> <li>・ 「めざす学校像」には「グローバル」より「国際化」の方がふさわしいのではないか。</li> </ul> <p>学科構成について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工業科の場合は、資格取得や専門の学習が大変になるので、1年生の時から専門的な勉強をさせた方がいい。</li> <li>・ 企業側としては、工業科の専門性は高い方がいい。総合学科は専門性の深い学習ができていないか疑問を持たれる。専門学科を残してほしい。</li> <li>・ 総合学科の福祉系列も、国家試験を取らせるために1年生から専門的な学習をさせている。他の総合学科を参考にして、工業の専門性についても工夫できるところがあるのではないか。</li> <li>・ 平成30年度を100人ずつで募集できないか。</li> <li>・ 小規模化していく中で、工業の小学科については、産業界の意見等も聞く必要があると思う。</li> </ul>

地区	主な意見等
唐津地区	<p>「めざす学校像」について 事務局案のとおり承認 教育内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校時についての校内検討では、始業時間を変えないで、放課後の時間を確保するという案も出た。遅い校時の太良高校と違えることで、学校選択の判断材料のひとつとなるのではないか。</li> <li>・ 不登校経験や発達障害のある生徒も通学しやすいよう、太良高校のように始業時間を遅らせる案が良いのではないか。</li> <li>・ 巖木高校の場合、「地元の協力」という際、昔の巖木町であればわかりやすいが、今は唐津市ということもあり、「地域」「地元」のとらえ方が難しい。</li> </ul>
鹿島地区	<p>「めざす学校像」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 性格が異なる2つの高校を一緒にして、新たな学校づくりをするという方向で、それぞれの学校の良さをうまくつなげて「めざす学校像」を作っていると思う。</li> </ul> <p>事務局案のとおり承認 学科構成について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 普通科と専門学科から40人ずつ減らすパターンが現実的と思う。ただ、どちらを先に減ずるにしても、理由の整理が必要である。</li> <li>・ 組合せは、普通科160人、商業科40人、食品調理科40人が良いのではないか。</li> <li>・ 平成30年度の40人の定員減を、普通科と専門学科から20人ずつの減とできないか。</li> </ul>

## 新高校の学科構成

### 1 新実施計画（第1次）における新高校の学科についての基本的な考え方

「現在の学科を基本として、地域の意見も聞きながら検討する。」こととしている。

#### <平成27年度現在の学科の状況>

学校	大学科区分	小学科	学級数(1学年あたり)	定員(1学年あたり)	コース分け等
鹿島高校	普通科		5学級	200人	2年次より、文系・理系コース
鹿島実業高校	商業科	商業科	1学級	40人	2年次より「商品開発コース」 「会計コース」
		情報処理科	1学級	40人	2年次より「ビジネス情報コース」 「情報管理コース」
	家庭科	食品調理科	1学級	40人	コース設定なし

### 2 平成30年度～平成32年度の学級数（募集定員）の見通し

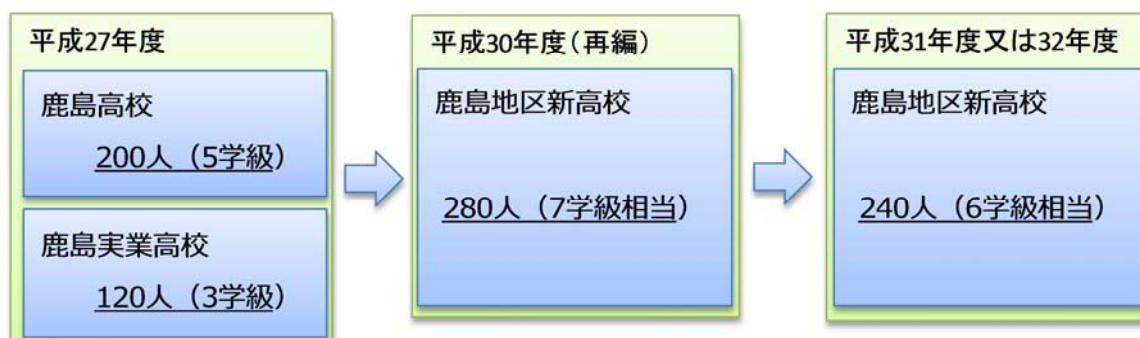
鹿島・藤津地区の再編後の学級数（募集定員数）については、以下の見込である。

鹿島地区 平成30年度 1学年280人（7学級規模）

「鹿島・藤津地区については、生徒数の減により、平成31年度及び平成32年度に、さらに募集定員を各40人（1学級相当）減じる必要があると見込んでいる。」

（新実施計画 第1次 より）

#### <鹿島地区新高校 募集定員の流れ（見込）>



### 3 新高校の学科(案)

- 現行：普通科5学級（200人）、  
食品調理科1学級（40人）、商業科1学級（40人）、情報処理科1学級（40人）

#### 平成30年度

○ 普通科	学級（	人）
○ 食品調理科	学級（	人）
○ 商業科	学級（	人）
計		学級（280人）



#### 平成31年度（平成32年度）

○ 普通科	4 学級（	160人）
○ 食品調理科	1 学級（	40人）
○ 商業科	1 学級（	40人）
計		6 学級（240人）

#### (1) 学科構成の理由

普通科は鹿島・藤津地区の大学進学指導の中心的役割を担い、例年100名程度の国公立大学合格者を出すなど、地域の進学ニーズに応える学科として唯一のものである。

しかし、一方で近年の志願倍率を見ると、過去4年間の一般選抜の志願倍率の平均が1.01倍であり、今後の地域の生徒数の減少を勘案すると、今後定員を十分に満たすことができなくなる可能性も懸念されるため、5学級から1学級を減じて4学級とする。

商業科及び情報処理科は家庭の事情等（地域的な特性）から大学進学を目指さずに、就職を目的として進学してくる生徒も多く、そのような地域のニーズの受け皿となっている。両学科とも県内外を問わず多くの求人があり、地元企業にも多数就職するなど、地域産業の担い手を輩出している。

しかし、一方で近年の志願倍率を見ると、過去4年間の一般選抜志願倍率の平均が0.91倍であり、定員割れをすることも多くなってきており、今後の地域の生徒数の減少を勘案すると、今後定員を十分に満たすことができなくなる可能性も懸念されるため、現在の商業科と情報処理科の2学科体制を再編して1学科2コース体制とする。

食品調理科は調理師養成施設として厚労省の指定を受け、卒業と同時に調理師免許を取得できるという特色を持った学科であり、卒業生の多くは食に係わる職業に従事し、地元への貢献度も高い。志願倍率も高水準を維持しており、全県的にも食品調理科の生徒のニーズは依然として高いと考えられるため、現状の1学級を維持する。

再編完成年度に向けての学級減の時期及び学級数、学級規模については、引き続き検討する。

#### (2) 今後の検討課題

普通科及び専門学科のコース設定、特色ある教育に関する検討

# 参考資料1

## 第3回設置準備委員会提示資料

### 再編後の学科及び定員の組合せパターン

(H30年度募集定員7学級規模 平成31年度又は32年度募集定員6学級規模)

#### 専門学科を先に減じる場合

平成30年度					平成31年度(又は32年度)				
パターン	学科 (大学科)	小学科 コース	定員	相当 学級数		学科 (大学科)	小学科 コース	定員	相当 学級数
パターン1	普通科		200	5	⇒	普通科		160	4
	商業科	商業	20	0.5		商業科	商業	20	0.5
		情報処理	20	0.5		商業科	情報処理	20	0.5
	家庭科	食品調理	40	1		家庭科	食品調理	40	1
パターン2	普通科		200	5	⇒	普通科		160	4
	商業科	商業	40	1		商業科	商業	40	1
	家庭科	食品調理	40	1		家庭科	食品調理	40	1
パターン3	普通科		200	5	⇒	普通科		160	4
	商業科	情報処理	40	1		商業科	情報処理	40	1
	家庭科	食品調理	40	1		家庭科	食品調理	40	1
パターン4	普通科		200	5	⇒	普通科		160	4
	商業科	商業	40	1		商業科	商業	40	1
		情報処理	40	1		商業科	情報処理	40	1

#### 普通科を先に減じる場合

平成30年度					平成31年度(又は32年度)				
パターン	学科 (大学科)	小学科 コース	定員	相当 学級数		学科 (大学科)	小学科 コース	定員	相当 学級数
パターン1'	普通科		160	4	⇒	普通科		160	4
	商業科	商業	40	1		商業科	商業	20	0.5
		情報処理	40	1		商業科	情報処理	20	0.5
	家庭科	食品調理	40	1		家庭科	食品調理	40	1
パターン2'	普通科		160	4	⇒	普通科		160	4
	商業科	商業	40	1		商業科	商業	40	1
		情報処理	40	1		商業科	情報処理	40	1
	家庭科	食品調理	40	1		家庭科	食品調理	40	1
パターン3'	普通科		160	4	⇒	普通科		160	4
	商業科	商業	40	1		商業科	情報処理	40	1
		情報処理	40	1		商業科	情報処理	40	1
	家庭科	食品調理	40	1		家庭科	食品調理	40	1
パターン4'	普通科		160	4	⇒	普通科		160	4
	商業科	商業	40	1		商業科	商業	40	1
		情報処理	40	1			情報処理	40	1
	家庭科	食品調理	40	1		家庭科	食品調理	40	1

#### 専門学科を減じない場合

平成30年度					平成31年度(又は32年度)				
パターン	学科 (大学科)	小学科 コース	定員	相当 学級数		学科 (大学科)	小学科 コース	定員	相当 学級数
パターン5	普通科		160	4	⇒	普通科		120	3
	商業科	商業	40	1		商業科	商業	40	1
		情報処理	40	1		商業科	情報処理	40	1
	家庭科	食品調理	40	1		家庭科	食品調理	40	1



普通科を減じない場合

平成30年度					平成31年度(又は32年度)				
パターン	学科 (大学科)	小学科 コース	定員	相当 学級数		学科 (大学科)	小学科 コース	定員	相当 学級数
パターン6	普通科		200	5	⇒	普通科		200	5
	商業科	商業	40	1		家庭科	食品調理	40	1
	家庭科	食品調理	40	1					
パターン6'	普通科		200	5	⇒	普通科		200	5
	商業科	情報処理	40	1		家庭科	食品調理	40	1
	家庭科	食品調理	40	1					
パターン7	普通科		200	5	⇒	普通科		200	5
	商業科	商業	40	1		商業科	商業	40	1
	家庭科	食品調理	40	1					
パターン7'	普通科		200	5	⇒	普通科		200	5
	商業科	商業	40	1		商業科	商業	40	1
		情報処理	40	1					
パターン8	普通科		200	5	⇒	普通科		200	5
	商業科	情報処理	40	1		商業科	情報処理	40	1
	家庭科	食品調理	40	1					
パターン8'	普通科		200	5	⇒	普通科		200	5
	商業科	商業	40	1		商業科	情報処理	40	1
		情報処理	40	1					

## 参考資料2

### 第3回設置準備委員会での意見

#### 学科構成について

- ・(平成33年度までの80人の定員減について) 専門学科からのみ減じると、専門学科の定員が40人になり、地元に残る者が少なくなるのではないかと。しかし、専門学科を全く減らさないというのも、卒業後の進路確保が気になるところだ。
- ・「めざす学校像」で示された大きな方向性に近づくためには、こういった学科の体制が一番いいのか。普通科と専門学科から40人ずつ減らすパターンが現実的と思う。ただ、どちらを先に減ずるにしても、理由の整理が必要である。
- ・普通科のレベルを維持するためには、普通科の定員減も必要だし、資料を見ると、商業科と食品調理科は残していかなければいけないと思う。
- ・定員は普通科と専門学科から40人ずつの減が妥当だろう。
- ・組合せは、普通科160人、商業科40人、食品調理科40人が良いのではないかと。
- ・普通科と専門学科から40人ずつの減が現実的。
- ・最終的には、普通科と専門学科から40人ずつの減で、商業科の中に情報処理科を一括し、食品調理科を残す方が良くないか。
- ・新たな学科の検討も必要ではないか。

#### 学級減のタイミングについて

- ・第1回目の進路希望調査の結果を見ると、先に専門学科を減じる方がよいのではないかと。
- ・普通科のレベルを落とさないためには、普通科を先に減じた方がよいのではないかと感じるが、いずれにしてもいろいろな角度から考えなければならず、時間がかかるのではないかと。
- ・学級数は生徒のニーズを踏まえて検討すべき。
- ・平成30年度の定員40人減について、普通科20人減、専門学科20人減というパターンにできないか。そして、平成31年度か32年度に、もう40人減の時も普通科20人減、専門学科20人減にしたらどうか。

#### 【第3回設置準備委員会意見まとめ】

##### 学科構成について

普通科と専門学科からそれぞれ1学級ずつ減じる。  
専門学科は商業科と食品調理科の組合せが良いのでは。

##### 学級減のタイミングについて

進路希望調査結果からいくと先に専門学科を減じた方がよい。  
普通科のレベル維持を考えると先に普通科を減じた方がよい。  
それぞれの学科で20人ずつの減はできないのか？

### 参考資料3

#### 特色ある教育制度や活動の例

##### (1) 学科・コースの新設

###### 国際系・グローバル系

普通科では現在国際・グローバル系のコース設定を行っている学校は無い。商業科では佐賀商業高校がH27年度入学生よりグローバル・ビジネスコースを設置している。

(調理国際科：佐倉東高校 千葉県、グローバルビジネス科：札幌国際情報高校 北海道 など)

###### 理数系

鹿島高校では理数コースを募集停止した経緯があり(H24入学生より募集停止)、一度廃止したものを再び復活させる理由付けが難しい。理数科については致遠館高校理数科がSSHの認定を受け、既に特色ある取り組みを展開している。

###### 医療系

現在県内県立高校に医療系コース設置校は無い。医進コースを設置した場合、現実的に医学部進学を狙える生徒を1学級分(40人)確保できるかどうか課題となる。医療看護系コース設置の場合は、定員確保は難しくないが、看護専門学校を含めた医療系専門学校への進学者が多数となることが懸念される。(メディカル・サイエンス科：延岡高校 宮崎県)

###### 探究系

現在県内県立高校に探究系コース設置校は無い。私立では佐賀清和高校が「探究文理科」を設置している。他県の探究系学科ではアクティブ・ラーニング(AL)等の問題解決・探究的な学習形態を導入している例が多い。学科内に文系・理系のコースを設定することで、理数科と異なり、生徒が文理の選択を高校入学後に行える利点がある。(堀川高校 京都市、富山高校 富山県 など)

##### (2) 文科省等による指定校

###### スーパーサイエンスハイスクール(SSH)

SSH指定校の多くは理数系の学科・コースを設置しているが、探究科を設置している指定校も一部ある。(堀川高校 京都市、飯山高校 長野県 など)

###### スーパーグローバルハイスクール(SGH)

現在県内にSGHの指定校は無し。普通科では武雄高校がH26年度にSGH認定に向けて取り組みを行った経緯がある。

###### ユネスコスクール

「肥前鹿島干潟」のラムサール条約湿地登録に伴い、環境教育推進のために申請することが考えられる。探究系コースの導入などと併せて探究的な環境学習を実施する方法もある。

(認定された場合、年に一度、日本ユネスコ国内委員会に報告書の提出が必要)

###### IB(国際バカロレア)

認定及び運用のハードルが非常に高く(英語による授業など)恐らくマンパワーが不足する。

##### (3) 課程の改編

###### ・ 単位制導入

配置される教員数は増えるが、その分選択授業も増加するので、教員の負担はあまり変わらない(むしろ増加?)。他県においては、進学校を単位制に改編し、生徒に進路に応じた授業を選択させ、進学実績を上げている例もある。(進学型単位制：新庄北高校 山形県 等)

##### (4) その他

###### ・ 授業方法等の工夫(ジグソー法、課題解決学習(PBL)、グループ学習、ディベート等のAL的な授業) (盛岡第三高校 岩手県、倉吉東高校 鳥取県、可児高校 岐阜県 など)

## 用語解説

### アクティブ・ラーニング (AL)

教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。(新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～(答申)平成24年8月28日 用語集より)

### スーパーサイエンスハイスクール (SSH)

国際的な科学技術系人材の育成につながる、先進的な理数系教育を行う高等学校等を文科省が指定し、支援を行う制度。指定を受けた学校には、学習指導要領によらないカリキュラムの開発・実践や、課題研究の推進、観察・実験等を通じた体験的・問題解決的な学習を推進することが求められる。

### スーパーグローバルハイスクール (SGH)

将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーの育成を重点的に行う高等学校を文部科学省が指定し、支援を行う制度。指定を受けた学校には、目指すべきグローバル人物像を設定し、国際化を進める国内外の大学を中心に企業、国際機関等と連携を図り、グローバルな社会課題、ビジネス課題をテーマに横断的・総合的な学習、探究的な学習を推進することが求められる。

### ユネスコスクール

ユネスコ憲章に示されたユネスコの理念を実現するため、平和や国際的な連携を实践する学校。活動目的は、ユネスコスクール・ネットワークの活用による世界中の学校と生徒間・教師間の交流を通じ、情報や体験を分かち合うことや、地球規模の諸問題に若者が対処できるような新しい教育内容や手法の開発、発展を目指すこととなっている。加盟校には、年に一度、日本ユネスコ国内委員会に報告書を提出することや、ユネスコやその関係機関・団体が行う様々な活動に参加することが求められる。

### 国際バカロレア (IB)

国際バカロレア機構(本部ジュネーブ)が提供する国際的な教育プログラム。チャレンジに満ちた総合的な教育プログラムとして、世界の複雑さを理解して、そのことに対処できる生徒を育成し、生徒に対し、未来へ責任ある行動をとるための態度とスキルを身に付けさせるとともに、国際的に通用する大学入学資格(国際バカロレア資格)を与え、大学進学へのルートを確保することを目的として設置された。なお、IBで認められている言語は、英語、フランス語、スペイン語の3つであり、これまで、日本でIB教育を行っている学校ほとんどは英語で授業を行っていたが、2013年に、一部科目の授業と試験・評価を日本語で実施する「日本語と英語によるデュアルランゲージ・ディプロマ・プログラム」(日本語DP)が導入されることが決定し、2016年度の高校2年生より適用されることとなった。

### 単位制

各学年での教育課程の修了を繰り返すことによって学習していく「学年制」に対し、授業科目を「単位」と呼ばれる学習時間数に区分して修得していく方式のことである。なお、現在多くの高等学校では、実際は単位制と学年制を併用しているが、特に「単位制高等学校」という場合は、一般には「学年制」を用いず「単位制」のみを用いているという意味である。「学年制」と違って原級留置(留年)はないが、必要な単位数が修得できるまで卒業が延びる形となる(4年次生、5年次生など)。

単位制高校の特色としては、自分の学習計画に基づいて、自分の興味、関心等に応じた科目を選択し学習できることや、学年の区分がなく、自分のペースで学習に取り組むことができることなどがあげられる。多様な選択科目を自分の興味関心や進路に応じて選択する総合学科を置く高校では、単位制を導入しているケースが多い。

## 参考資料4

### 鹿島・藤津地区の高校別志願状況

#### 地区概況

地区	学校名	H22入学生			H23入学生			H24入学生			H25入学生			H26入学生			H27入学生		
		9月	11月	後期	9月	11月	後期	9月	11月	一般	9月	11月	一般	9月	11月	一般	9月	11月	一般
鹿島 藤津 地区	鹿島	1.24	1.22	1.12	1.14	1.06	1.01	0.99	1.04	1.04	1.07	1.11	1.10	1.06	1.00	0.98	1.00	0.95	0.93
	太良	0.36	0.34	0.47	0.51	0.58	0.98	0.75	0.85	1.20	0.74	0.74	1.14	0.76	0.75	0.89	0.66	0.84	1.15
	塩田工業	0.87	1.02	1.20	0.71	0.71	0.90	0.71	0.81	1.00	0.74	0.74	0.99	1.00	1.03	1.16	1.00	1.02	1.04
	鹿島実業	1.75	1.60	1.42	1.44	1.49	1.17	1.38	1.33	0.94	1.35	1.30	0.92	1.29	1.22	1.11	1.13	1.03	0.81
	嬉野	0.73	0.84	1.05	1.00	1.09	1.20	1.20	1.13	1.25	1.01	1.08	1.23	0.97	0.86	0.90	0.76	0.78	0.90
西部学区計		1.07	1.07	1.10	1.03	1.03	1.07	1.08	1.08	1.09	1.07	1.08	1.13	1.07	1.06	1.05	1.02	1.01	1.05

※網掛けは1.00倍未満

※後期(または一般)倍率は、志願変更後の倍率である。

#### 鹿島高校及び鹿島実業高校志願状況(学科別)

学校名	学科	H22入学生			H23入学生			H24入学生			H25入学生			H26入学生			H27入学生		
		9月	11月	後期	9月	11月	後期	9月	11月	一般	9月	11月	一般	9月	11月	一般	9月	11月	一般
鹿島	普通科	1.24	1.22	1.12	1.14	1.06	1.01	0.99	1.04	1.04	1.07	1.11	1.10	1.06	1.00	0.98	1.00	0.95	0.93
鹿島実業		1.75	1.60	1.42	1.44	1.49	1.17	1.38	1.33	0.94	1.35	1.30	0.92	1.29	1.22	1.11	1.13	1.03	0.81
	商業科	1.64	1.50	1.47	1.59	1.53	1.17	1.61	1.44	0.91	1.26	1.26	0.88	1.30	1.23	1.09	0.98	0.98	0.76
	情報処理科																		
	食品調理科	1.98	1.80	1.32	1.15	1.43	1.17	0.90	1.13	1.00	1.53	1.38	1.00	1.28	1.20	1.14	1.43	1.13	0.93

※網掛けは1.00倍未満

※後期(または一般)倍率は、志願変更後の倍率である。

#### 学科別志願倍率平均(平成24年度入学生~平成27年度入学生)

高校	学科	一般選抜 平均倍率	予備調査を含めた 全平均倍率
鹿島	普通科	1.01	1.02
鹿島実業	商業科	0.91	1.14
	情報処理科		
	食品調理科	1.02	1.17

#### 平成28年度入試9月・11月予備調査結果

高校	学科	9月予備調査		11月予備調査	
		志願者数	志願倍率	志願者数	志願倍率
鹿島	普通科	242	1.21	221	1.11
鹿島実業	商業科	80	1.00	92	1.15
	情報処理科				
	食品調理科	55	1.38	39	0.98

#### ○ 鹿島・藤津地区の児童・生徒数推移(国公立)

平成27年5月1日現在の在籍児童・生徒数

	27年3月	28年3月	29年3月	30年3月	31年3月	32年3月	33年3月	34年3月	35年3月	36年3月
	(実績)	中3	中2	中1	小6	小5	小4	小3	小2	小1
鹿島・藤津 地区	683	700	673	635	593	584	573	591	571	576
	前年+/-	17	-27	-38	-42	-9	-11	18	-20	5

流出入率については勘案していない。

## 校舎制について

### 1 新たな生徒減少期に対応した佐賀県立高等学校再編整備実施計画（第1次）より

鹿島地区の新高校の場所については「当面、校舎制」としている。

### 2 鹿島地区校舎データ

#### (1) 現鹿島高校校舎（普通教室数は現在行われている改築工事完了後の数）

普通教室 15室（5教室×3学年）

体育館

講堂

プール

柔剣道場

弓道場

#### (2) 現鹿島実業高校校舎

普通教室 18室（うち3室は食品調理科用教室）

体育館

柔剣道場

弓道場

#### 再編後の校舎の呼称の例

##### 【例1】

鹿島高校舎 「南校舎」

鹿実高校舎 「北校舎」

##### 【例2】

鹿島高校舎 「赤門学舎」

鹿実高校舎 「大手門学舎」

#### (3) 校舎間距離

鹿島高校正門（赤門）～鹿島実業高校正門

280m（徒歩4分）



鹿島高校正門（赤門）～鹿島実業高校裏門

160m（徒歩2分）



### 3 検討事項

#### (1) 生徒の配置・移動（授業・部活動・行事等）

生徒の教室配置について（普通科4学級、専門学科2学級の場合）

【例1】学科別の配置（普通科 鹿島高校 専門学科 鹿島実業高校）

【例2】学年別の配置（例） 1年生 鹿島実業高校 家庭科以外の2,3年生 鹿島高校  
家庭科の2,3年生 鹿島実業高校

生徒の移動について

##### ア 基本方針

- ・ 両校舎の距離が極めて近いため、バス等の移動手段については考慮しない。
- ・ 授業については生徒の校舎間移動は原則行わず、授業担当教員が移動する。

##### イ 学校行事等における移動

- ・ 合同行事等の際は、生徒の移動時間を考慮したスケジュールを設定する。
- ・ 屋内の合同行事は体育館で行うものが最も多いと想定される。

##### ウ その他考慮すべきこと

- ・ 下足箱の増設（行事の際に校舎移動を行う生徒用 体育館に設置？）
- ・ 雨天時の移動（行事）（傘の準備をしておかなかった生徒用に、移動用の貸出傘を準備する）

#### (2) 職員の配置・移動（授業・部活動・行事等）

職員の配置について

##### ア 基本方針

- ・ 授業の担当クラスや時間割、学年を考慮して職員配置を行う。

##### イ 校長の配置について

【例1】曜日を分けて、それぞれの校舎に常駐（例：月水 鹿島校舎、火木金 鹿実校舎 等）

【例2】どちらかに校舎を決めて常駐（その場合は、校長不在の校舎に副校長を配置）

##### ウ 校務分掌

分掌主任の配置

【例1】両校舎に全ての分掌主任を配置（学年主任を除く）

【例2】両校舎に分掌主任と副主任を分散して配置

教務主任 鹿島校舎、教務副主任 鹿実校舎  
生徒指導主任 鹿実校舎、生徒指導副主任 鹿島校舎  
1年学年主任 鹿実校舎、1年学年副主任 鹿島校舎

【例3】分掌主任はどちらかの校舎に固めて配置する

見直しが必要となる校務分掌

- ・ 進路指導部

【例1】分掌内で進学担当と就職担当を分ける（主任 進学担当、副主任 就職担当など）

【例2】進学指導部と就職指導部をそれぞれ別に設ける

- ・ 普通科主任の新設

## 職員の移動について

### ア 基本方針

- ・ 両校舎の距離が極めて近いため、原則自家用車・公用車での移動は行わない。
- ・ 授業については生徒の校舎間移動は原則行わず、授業担当教員が移動する。

### イ 授業における移動

- ・ 極力校舎間移動をしないような時間割を設定する。
- ・ 移動が必要な授業は、特定の曜日や時間帯（午前・午後）に固める。

各種会議及び委員会等の開催形態（職員会議、学年会、教科会、各種委員会等）

【例1】両方の校舎で交互に実施

【例2】会場校舎を決めておき、常に同じ校舎で実施

【例3】校舎ごと別々に実施

【例4】基本的には校舎ごと別々に実施。ただし年に数回、議題やテーマによって合同実施（学期末、学校祭に関する会議、卒業・進級認定に関する会議等）

【例5】会議場所はそれぞれの校舎だが、テレビ会議システムを利用する（Skype、Ustream、jabber、ハンガアウト等）

### 両校舎間の連絡手段の整備

- ・ 両校舎間での内線（インターホン）の整備
- ・ 両校舎をカバーする放送設備の整備（鹿島校舎から鹿実校舎に放送を入れる等）
- ・ テレビ会議・中継システム（天候の状況により全校集会を各教室の電子黒板を利用して行う等）
- ・ 文書の受付、回議、回覧体制の構築

## (3) 校時

【例1】両校舎（全学科）で終業時間を統一

50分×7限授業（7限目の専門学科は資格取得のための講座等）

【例2】学科ごとに終業時間を別に設定

普通科 50分×7限

専門学科 50分×6限（6限終了後は部活動）

## (4) 部活動

- ・ 再編後の部活動の設置について検討する（統合・新設等）
- ・ 部活動ごとに活動場所を設定する。
- ・ 生徒の部活動の移動は各自で行う。

## (5) 合同行事として考えられるもの

入学式（体育館）	卒業式（体育館）	始業式・終業式（体育館）
芸術鑑賞会（体育館・市民会館等）		体育祭（グラウンド）
文化祭（体育館・各校舎・各教室）		高校総体壮行会（体育館）
全校集会（体育館）	修学旅行	開校記念行事（体育館）
学年集会（体育館・武道場・講堂）		新入生合宿
牡丹餅会（体育館）	104年前より合同で実施中	

行事ごとに隔年または交互に実施することも考えられる。

例：入学式 鹿島校舎 卒業式 鹿実校舎（次の年度はその逆）など



## 4 校舎制の他県事例

### 1 塩釜高等学校（宮城県）

#### 1 沿革

H22 宮城県塩釜女子高等学校（普通科）と（旧）塩釜高等学校（普通科、商業科）が統合。共学制の宮城県塩釜高等学校として開校。

#### 2 学科と募集定員・一般入試の志願倍率

校舎	学科	H27 募集 定員（人）	志願倍率 （H27）	H26.9 の在籍者（人）		
				1年	2年	3年
東キャンパス （普通科1、2年生）	普通科	320	1.51	320	318	
	ビジネス科	80	1.30			
西キャンパス （ビジネス科、普通科3年生）	普通科					311
	ビジネス科			79	79	78

（H27 宮城県全体の倍率 全日制 1.22 後期選抜）

#### 3 各キャンパスの状況 【キャンパス間の距離 500m】 裏門・通用口等を利用した場合は 100m 程度

（参考資料1参照）

##### (1) 西キャンパス（旧塩釜高校校舎）

住所 宮城県塩竈市泉ヶ岡10番1号

設置学科

- ・ 普通科、ビジネス科

特色・位置づけ

- ・ 塩釜高校の本校舎としての位置づけ
- ・ 3年生が通学

##### (2) 東キャンパス（旧塩釜女子高校舎）

住所 宮城県塩竈市泉ヶ岡7番1号

設置学科

- ・ 普通科、ビジネス科

特色・位置づけ

- ・ 1,2年生が通学

#### 4 卒業後の状況（平成25年度）

課程	大学		短大		大学校	専門 学校	就職
	国公立	私立	国公立	私立			
普通科	7	91	0	24	0	92	85
ビジネス科	1	9	0	3	1	4	50
計	8	100	0	27	1	96	135

##### (1) 主な合格先

- ・ 国公 宮城教大(1)、宮城大(2)、福島大(3)、山形大(2)
- ・ 私大・その他 東北学院大、宮城学院女子大、仙台大等

##### (2) 主な就職先

- ・ 仙台市役所、七十七銀行、アイリスオーヤマ、仙台三越等

#### 5 部活動 体育系 24 文化系 20 計 44

#### 6 職員数 2学科、10学級、400人/学年 - 教員数 76人

- (1) 校舎制導入の背景について
  - ・ H22（2010）年、宮城県塩釜女子高校（普通科）と旧宮城県塩釜高校（普通科、商業科）を再編して開校。男女共学化を進めるための再編であり、募集定員減によるものではない。
  - ・ 立地に恵まれていて、列車等の交通の便がよく、志願倍率も高い。従って少子化の影響は少ない。
- (2) 校舎制のメリット・デメリット
  - メリット
    - ・ 体育館やグラウンド等がそれぞれ2校舎分あるため施設は充実しており、部活動も盛んである。
    - ・ 3年生になる時に校舎を変わるため、新鮮な気持ちで臨むことができる。また、2年生は、校舎での最上級生としてのびのびと行動している。
  - デメリット
    - ・ 生徒の移動の際には公道を通るため、移動経路に教員が立って交通指導を行う必要がある。
    - ・ 3年生が別校舎にいるため、下級生に3年生の頑張りを見せることができない。
    - ・ 実質的に2校舎を運営しているが、あくまで1つの学校としての扱いであるため、1校舎分の予算しかつかず、年度途中で足りなくなる（予算要求は2校舎分の見積もりで行っている）
    - ・ 職員配置が厳しいため、先生方の持ち時間が多くなる。  
（普通科の平均が16時間、商業科が19時間）
- (3) 職員・生徒の配置と移動状況について
  - 生徒の配置
    - ・ 西キャンパスに普通科の3年とビジネス科を、東キャンパスに普通科の1、2年を配置。
  - 生徒の移動
    - ・ 通常生徒を移動させるのは放課後の部活動のみ。
    - ・ 合同行事は、文化祭、体育祭、始・終業式、進路講演会等であり、その際には職員が移動経路に立って交通指導を行う。
    - ・ 入学式、卒業式に際しては、西キャンパスで行い、在校生は出席しない（生徒の移動なし）
  - 職員の配置
    - ・ 校長は西キャンパスに3日、東キャンパスに2日の勤務。ただし、東キャンパス勤務の時は、午後は西キャンパスへ移動する。
    - ・ 教員の配置についてはすべて標準法通りで、特に加配はない。
    - ・ 兼務している教諭は、11人（地歴2人、数学2人、理科3人、英語2人、家庭2人）
  - 職員の移動
    - ・ 兼務する教諭の移動時間が10分～15分かかるため、前の時間を空けておかなければならず、勤務時間内で教科・学年会議等が組みにくい。
    - ・ 兼務する教諭の移動は、1日1回ですむように、時間割の配慮をしている。
    - ・ 地図上では近距離に見えるが、実際の両キャンパス間の距離は600～700mほどあり、起伏の大きい地形で、移動する際には階段の上り下りも多く、授業間の10分での移動は難しい。
- (5) 校務分掌、諸会議等の在り方について
  - ・ 主たる分掌（教務、進路、生徒指導）の主任は西キャンパスに在籍。
  - ・ 職員会議は西キャンパスに全員移動して行う（短縮校時にして可能な限り勤務時間内に収めるように配慮）
  - ・ 時間割の中にあらかじめ会議の時間を入れることができないため、会議は全て放課後に行っている。
- (6) その他、校舎制高校の運営上、特に留意すべき点について
  - ・ 時間割は普通科とビジネス科で揃えている（週32時間）が、放課後に補習を行うこともある。
  - ・ 両校舎間で綿密に連絡が取れるようにしておく。塩釜高校では校舎間で内線を2回線引いている。さらに校舎間のLANネットワークを構築している。
  - ・ 同窓会は旧塩釜高校の方に統合されている。
- (7) 校舎制の影響について
  - ・ 合同行事も実施しており、生徒たちには1つの高校としての一体感はあると思う。

## 2 新見高等学校（岡山県）

### 1 沿革

H19.4 岡山県立新見高等学校（普通科）と岡山県立新見北高等学校（農業、工業、商業）が統合

### 2 学科と募集定員・一般選抜の志願倍率

校舎	学科	H27 募集 定員（人）	志願倍率 （H27）	H27 の在籍者（人）		
				1年	2年	3年
南校地	普通科	105	0.97	103	92	112
北校地	生物生産科	30	0.60	26	30	27
	工業技術科	35	1.22	35	40	37
	総合ビジネス科	35	0.72	30	30	40

（H27 岡山県全体の倍率 全日制 1.14）

### 3 各校地の状況 【校地間の距離約 950m（学校間き取りでは 700m）】（参考資料 1 参照）

#### (1) 南校地（旧新見高校校舎）

住所 岡山県新見市新見 1394

設置学科

- ・ 普通科（単位制、2 学期制）

特色・位置づけ

- ・ 国立大学進学を基本とした進学指導

#### (2) 北校地（旧新見北高校校舎）

住所 岡山県新見市新見 1994

設置学科

- ・ 生物生産科、工業技術科

総合ビジネス科

（単位制、2 学期制）

### 4 卒業後の状況（平成 26 年度）

大学		短大		大学校	専門 学校	就職・その他
国公立	私立	国公立	私立			
32	131	1	2	0	10	67

進学実績は普通科のみ、就職実績は全学科のもの

主な合格先

- ・ 国公 島根大(7)、徳島大(4)、香川大(4)、岡山大(2)、岡山県立大(2)、高知大(2)
- ・ 私大・その他 京都産業大、大阪経大、関西大、近畿大 等

### 5 部活動 体育系 13 文科系 13（含 同好会） 計 26 殆どの部活が合同で活動

### 6 職員数 4 学科、6 学級、205 人 - 教員数 45 人 （校長、副校長、養護教諭、講師は除く）

- (1) 校舎制導入の背景について
  - ・ 新見地区は岡山県の平成 20 年度の再編計画において再編対象となったが、学校規模がまだ大きい状況での再編であったため、施設・設備的に何れかの校地に全てが収まりきらず、校舎制で再編することとした。
- (2) 校舎制のメリット・デメリット
  - メリット
    - ・ 校地毎に校時、学科、行事等が異なっても、お互いの影響を受けずに授業を行うことができる。
    - ・ 体育館やグラウンドが同規模校の 2 倍あり、授業や部活を行いやすい。
    - ・ 国や県からの調査や文書の提出を、それぞれの校地の課長で役割分担して行うことができる。
  - デメリット
    - ・ 連絡の不徹底による行き違いや、業務の重複。校舎間で十分な意思疎通がやりにくい。
- (3) 職員・生徒の配置と移動状況について
  - 生徒の配置
    - ・ 南校地に普通科。北校地に生物生産科、工業技術科、総合ビジネス科を配置している。
  - 生徒の移動
    - ・ 授業に伴う生徒の移動はない。部活動は自転車でそれぞれの部活の練習場所へ移動している。
    - ・ 体育祭（南校地で実施）卒業式（交互に実施）の際は、歩いて移動。
    - ・ 授業の際の生徒の移動は無いが、毎日の部活動で生徒は良く交流している。
  - 職員の配置
    - ・ 教員は基本的にはそれぞれの校地に配置。音楽と書道の教員のみ兼務。（音楽＜本務 南校地、月曜のみ北校地勤務＞、書道＜本務 北校地、木曜のみ南校地勤務＞）
    - ・ 分掌の課長はそれぞれの校地に 1 人ずつ配置。
    - ・ 加配は初任研加配のみ（南校地）
  - 職員の移動
    - ・ 両校地間の距離は約 700m（佐賀県立図書館から赤松小前までくらいの距離）。車通りの多い国道を移動する。南校地から北校地へは、坂を上る形になる。
    - ・ 芸術科の兼務 2 人以外は他の校地での授業は無い。兼務教員も曜日で勤務校舎を固定。
    - ・ 部活動、職員会議、行事の際は主に自家用車で移動する。  
（南校地の職員昇降口に移動してきた北校地の職員用の下足箱を準備）
- (5) 校務分掌、諸会議等の在り方について
  - ・ 合同の職員会議は年 3 回（年度初め、2 学期直前、3 学期）南校地で実施。
  - ・ 校地ごとの職員会議は月 1 回。ただし、もう一方の校地の副校長（教頭）も参加する。
  - ・ 週の初めに管理職（校長、副校長、事務部長）の打ち合わせ会を実施。
  - ・ 年度の初めに、両校地合同部活動顧問会議を実施。
- (6) その他、校舎制高校の運営上、特に留意すべき点について
  - ・ 行事予定表に両校地の予定を記載。お互いの動きを意識して業務に当たるようにしている。
  - ・ 校地間に IP 電話を開設（事務室、各科、保健室）
  - ・ 同窓会については、それぞれの同窓会が主体的に発展的解消を行い、一つの組織となっている。
  - ・ PTA は両校併せて 1 つの組織としている。隔年で一方の校地から PTA 会長、他方の校地から会長代理を選出している。
- (7) 合同行事について
  - ・ 1 学期始業式、入学式、新入生宿泊研修  
修学旅行（出発・帰着は同じ。ただし、コースの中身（ルート）は異なる）  
心肺蘇生法講習会、体育祭（9 月、南校地で実施 北校地のグラウンドは狭く、隣の小学校と共用）  
芸術鑑賞会（隔年でそれぞれの校地で実施）ウォーキング大会  
入学者選抜（南校地で一括実施。ただし 2 次募集は校地別）卒業式、3 学期終業式

## 参考資料 1

### 塩釜高校 東キャンパスと西キャンパスの位置関係



### 新見高校 南校地と北校地の位置関係



## 新高校の教育内容（教育課程、校時等）

### 1 教育課程について

学科構成（コース・類型設定等も含む）の事務局案の決定後、普通科、専門学科それぞれで事務局試案を作成する。

(1) 現行の教育課程（平成27年度入学生）

- ・ 普通科：週35単位（総学、HR活動含む） 7限授業×5日
- ・ 専門学科：週30単位（総学、HR活動含む） 6限授業×5日

(2) 教育課程検討スケジュール

平成28年3月 第5回設置準備委員会 事務局試案提示

平成29年3月まで 新高校教育課程完成（4月以降、新高校の広報活動）

平成29年7月 新高校教育課程、県報告

## 2 新高校の校時について

### (1) 現行の校時

【鹿島高校】職員朝礼 8 : 05 ~

	50分授業	45分授業
読書	8 : 15 ~ 8 : 25	8 : 15 ~ 8 : 25
朝礼 SHR	8 : 25 ~ 8 : 30	8 : 25 ~ 8 : 30
1校時	8 : 40 ~ 9 : 30	8 : 40 ~ 9 : 25
2校時	9 : 40 ~ 10 : 30	9 : 35 ~ 10 : 20
3校時	10 : 40 ~ 11 : 30	10 : 30 ~ 11 : 15
4校時	11 : 40 ~ 12 : 30	11 : 25 ~ 12 : 10
昼休み	12 : 30 ~ 13 : 15	12 : 10 ~ 12 : 55
5校時	13 : 15 ~ 14 : 05	12 : 55 ~ 13 : 40
掃除	14 : 05 ~ 14 : 20	13 : 40 ~ 13 : 55
6校時	14 : 25 ~ 15 : 15	14 : 00 ~ 14 : 45
7校時	15 : 25 ~ 16 : 15	14 : 55 ~ 15 : 40
終礼	16 : 15 ~ 16 : 20	15 : 40 ~ 15 : 50

【鹿島実業高校】職員朝礼 8 : 25 ~

	50分授業	45分授業
読書	8 : 35 ~ 8 : 45	8 : 35 ~ 8 : 45
SHR	8 : 45 ~ 8 : 55	8 : 45 ~ 8 : 55
1校時	9 : 00 ~ 9 : 50	9 : 00 ~ 9 : 45
2校時	10 : 00 ~ 10 : 50	9 : 55 ~ 10 : 40
3校時	11 : 00 ~ 11 : 50	10 : 50 ~ 11 : 35
4校時	12 : 00 ~ 12 : 50	11 : 45 ~ 12 : 30
昼休み	12 : 50 ~ 13 : 35	12 : 30 ~ 13 : 15
5校時	13 : 35 ~ 14 : 25	13 : 15 ~ 14 : 00
6校時	14 : 35 ~ 15 : 25	14 : 10 ~ 14 : 55
掃除	15 : 25 ~ 15 : 40	14 : 55 ~ 15 : 10
SHR	15 : 40 ~ 15 : 45	15 : 10 ~ 15 : 15

### (2) 校時設定の考え方

両校舎で校時をそろえる場合 普通科校時（現鹿島高校校時）に統一

- ・ 普通科は7限目まで授業が行われるため、専門学科（現鹿島実業高校）の校時に統一してしまうと、終業時間が遅くなり（16:40~終礼）部活動等に支障が出る。
- ・ 専門学科の7校時目の使い方については検討する。  
（部活動、資格取得のための補習、大学進学のための補習など）

両校舎で校時をそろえない場合 現行のそれぞれの校時で運用

- ・ 生徒の配置は、普通科 普通学科校舎、専門学科 専門学科校舎しかできない。
- ・ 部活動の開始時間が両校舎で異なるため、専門学科の生徒のみの場合（15:45以降）の活動場所と、合同練習（16:20以降）の練習場所を別に設定しなければならない。

## 新高校設置準備委員会設置要領

平成14年10月21日  
佐賀県教育委員会教育長決定  
一部改正 平成17年4月 1日  
一部改正 平成18年7月12日  
一部改正 平成21年4月 1日  
一部改正 平成27年4月 1日

## (設 置)

- 第1条 佐賀県立高等学校再編整備実施計画に定める再編等によって設置される高校(以下「新高校」という。)の具体的な在り方等を検討するために、県立高等学校再編整備推進本部設置要綱第7条の規定に基づき、新高校設置準備委員会(以下「委員会」という。)を設置する。
- 2 委員会は、新高校ごとに別表のとおり設置する。

## (所掌事項)

- 第2条 委員会は、次の各号に掲げる具体的な検討を行う。
- 一 新高校の教育内容及び管理運営等に関すること
  - 二 新高校の施設・設備に関すること
  - 三 新高校への円滑な移行に関すること
  - 四 前号に掲げるもののほか、検討を要すること

## (組 織)

- 第3条 委員会の委員は、再編等整備の対象となる学校(以下「再編等対象校」という。)の校長、教職員、県教育委員会事務局関係者及び地域関係者のうちから教育長が委嘱する。
- 2 委員会には委員長及び副委員長を置き、再編等対象校関係委員の中から教育長が指名する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を代理する。
- 4 委員長は、必要と認めるときは、委員会に作業部会を設置することができる。

## (会 議)

- 第4条 委員会は、委員長が招集し、主宰する。
- 2 委員長は、必要と認めるときは、委員以外の者に委員会への出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

## (事務局)

- 第5条 委員会の事務局は、委員長が所属する学校及び県立高校再編整備推進室に置く。

## (補 足)

- 第6条 この要領に定めるもののほか、委員会及び作業部会の運営に必要な事項は委員長が委員会に諮って定める。



## 別表（第1条関係）

委 員 会 名	再 編 等 対 象 校
伊万里地区新高校 設置準備委員会	伊万里農林高等学校、伊万里商業高等学校
杵島地区新高校 設置準備委員会	白石高等学校、杵島商業高等学校
新巖木高校 設置準備委員会	巖木高等学校
鹿島地区新高校 設置準備委員会	鹿島高等学校、鹿島実業高等学校
嬉野地区新高校 設置準備委員会	塩田工業高等学校、嬉野高等学校

資料6 鹿島地区新高校設置準備委員会委員構成

No.	所属・職名	氏名	備考	
1	鹿島高等学校 校長	角 敬一郎	委員長・学校関係者	
2	鹿島実業高等学校 校長	渡辺 孝一	副委員長・学校関係者	
3	鹿島高等学校 教頭	今田 康光	学校関係者	
4	鹿島実業高等学校 教頭	中島 淳		
5	鹿島市教育長	江島 秀隆	鹿島市	市町関係者
6	鹿島市総務部長	橋村 勉		
7	嬉野市教育長	杉崎 士郎	嬉野市	
8	白石町教育長	江口 武好	白石町	
9	太良町教育長	松尾 雅晴	太良町	
10	鹿島高等学校 同窓会代表	矢野 善紀	地元関係者	
11	鹿島実業高等学校 同窓会代表	小池 幸照		
12	鹿島高等学校 PTA代表	岡田 和人		
13	鹿島実業高等学校 PTA代表	藤永 一男		
14	鹿島市立西部中学校長	白仁田 茂	中学校関係者	
15	鹿島市立東部中学校長	植松 正鋼		
16	副教育長（教育情報課長）	福田 孝義	県教委関係者	
17	教育政策課長	八谷 幸浩		
18	教職員課長	福地 昌平		
19	学校教育課長	松尾 敏実		
20	保健体育室長	三上 智一		
21	教育支援課長	源五郎丸 靖		
22	県立高校再編整備推進室長	甲斐 照章		
23	県立高校再編整備推進室 教育企画監	岩村 彰		
事務局	鹿島高等学校教諭	久野 直樹		
	鹿島実業高等学校教諭	梶原 圭介		
	県立高校再編整備推進室 企画主査	椛島 秀樹		
	県立高校再編整備推進室 企画主査	高山 裕樹		

# 鹿島地区新高校設置に向けた検討体制

